

校長室だより No.6

調べる学習と自由研究に参加を

2023年 7月4日 柏市立土小学校 校長 梅津健志

前号で、夏休み面白教室の募集案内の前振りを書かせていただきました。6月30日から募集を開始しましたが、前年に比べて応募者が少ない状況です。本教室は土小学校の児童のみを対象にしていますので、応募が多いからと受講できないことはありません。お子様と相談して、様々な体験や探究する学びの機会としてもらいたいと願います。

7月3日現在では、調べる学習教室と自由研究教室への応募者が0名です。どちらもテーマを入力する欄があるため、躊躇しているのかと思います。テーマを決めるための活動は、7月6日と10日の放課後に設定しております。その時間にも参加が難しい子供に対しては、教室開始後にテーマ設定の活動を組みますので、テーマ欄には「未定」と入力して応募してください。事前にテーマ設定の活動を行う理由は、子供のテーマに合わせて、他校や公立図書館から本を借りたり、実験や観察の準備を整えておいたりするためです。土小学校では、総合的な学習を軸として、各教科の学びでも子供たちが「どうしてだろう?」「どうなっているのだろう?」「なぜ、〇〇なのだろう?」と問いを持って学習をする、探究型と言われる学習スタイルに少しずつ変えていこうとしています。まさに、調べる学習や自由研究の姿がそういう姿になります。なぜ、探究するような形に授業も変えていくのか、一端を説明します。

今までは、子供たちの脳は空っぽのコップのようなもので、注ぎ込めば注ぎ込むほど中に水が入っていくように、勉強する内容を時間をかけて入れていけば入り、入ったものを使えるようにすればよいと考えていました。しかし、発達心理学が進むことにより、子供の脳は、自分から「知りたい、やってみたい、どうしてだろう?」というような動機や問いがなければ、知識や技術は入りにくく、また脳の中に残らないことがわかってきました。試験で100点を取るという動機があれば、知識は詰め込んでいけるかもしれませんが、しかし、試験という一過性の動機では、得た知識を生活や社会で活かすというところに発展しないことも分かってきました。

そこで、子供たち自身が自ら問いを持ったり、できるようになりたいという動機を持ったりして取り組む、探究的な学びが大切であることがわかり、小学校高学年から中学、高校、大学に向けてどんどん必要な力だということも認識されてきました。さらに、今の社会の仕事自体が、上司の言う通りに動く人ではなく、目の前の現象から課題を見つけて、解決方策を考え、試行錯誤を繰り返しながらも、やり抜いていく力がとても重要になっています。大人になってからも役立つ、調べる学習と自由研究の学び体験を、是非夏休みに経験させて欲しいと願っています。